

平成22年度
沖繩県立博物館・美術館
美術館教育普及報告書

美術館
Art Museum

美術館催事案内
Art Museum Exhibition Guide



はじめに	04	—————
美術館教育普及とは	05	—————
キュレータートーク	06	—————
学芸員の声	07	—————
鑑賞ツアー	08	—————
鑑賞ボランティアの声	09	—————
アーティスト(ギャラリー)トーク	10	—————
作家の声	11	—————
教員向け講座	12	—————
参加者の声	13	—————
アウトリーチ(出張美術館)	14	—————
参加者の声	15	—————
ワークショップ	16	—————
参加者の声	17	—————
その他催事	18	—————
移動展	22	—————
展覧会関連催事	24	—————
「母たちの神-比嘉康雄展-」		
「60年代を駆け抜けた画家の軌跡 安谷屋正義展-モダニズムのゆくえ」		
実施統計	28	—————
さいごに	30	—————
奥付	31	—————

contents

はじめに

平成19年11月に開館した沖縄県立博物館・美術館は今年で4年目に入り、入館者数は150万人を超えました。これも県民の皆様をはじめとする県内外、多くの方々の当館に対する期待の表れであり、我々の責任の大きさを表しています。

美術館の主な活動内容として、収集・保存・調査研究・展示公開そして教育普及があげられます。美術館が単なる施設ではなく、文化や知識の発信地となるためには、学芸員側の専門的アプローチと共に、誰もが「美術」や「芸術」に対して興味関心を持つことができる「場」であることが重要です。そしてそのきっかけを作る「場」として「教育普及」活動があると思います。

当美術館は開館前より、美術や芸術に関連するイベントやワークショップ、美術講座といった教育普及プログラムを数多く行ってきました。本報告書は、平成22年度に実施したキュレータートークやアーティストトーク、講演会といった展覧会に関連した普及活動及び美術館ボランティアに関する普及活動の内容をまとめたものです。

本報告書が、皆様にとって県立美術館を活用する一助になれば幸いです。

沖縄県立博物館・美術館 館長 牧野 浩 隆

美術館教育普及とは

美術館の教育普及活動は、「鑑賞活動」や「実技体験」の支援プログラムを主な柱として展開している。

本年度は鑑賞活動のプログラムに重点を置き、鑑賞ボランティアによる対話を通じた展示作品鑑賞を推進しており、また作品理解をすすめるために、定期的に学芸員によるキュレータートーク、作品制作者やその関係者によるアーティスト（ギャラリー）トークを展示室で実施するとともに、絵本の読み聞かせやボランティア育成講座など幅広い層に鑑賞活動を行った。

また、館内だけのプログラムではなく、県立という施設に鑑み、アウトリーチ活動の充実を目指し、出張美術館も行い、本物だから得られる感動を共有できたといえる。



キュレータートークとは、展覧会を企画した担当学芸員が、開催中の展示作家や作品に対する思いを語り、そして展覧会を開催するにあたり進めてきた調査・研究の内容を話す場でもある。

来館者にとって、学芸員の話聞く事により「美術」への関心を高め、その興味を深めるきっかけの場になればと思う。また学芸員にとっても、いかに自身の展覧会の魅力を伝えるか、その方法を考え実行することで、案内人としての自身のスキルアップにつなげている。

つまり、キュレータートークは、「美術館」という未知の空間に入り、学芸員という水先案内人と共に探求・発見していく1つの探検旅行だといえる。

作品の鑑賞は、みる側が自分自身の経験や価値観をもとに、作品からメッセージを感じ取ったり、自由にイメージを膨らませてストーリーを思い浮かべながら、愉しんだりすることが大切だと考えます。また、作品制作の時代背景や制作者の人物像や美術史の中からみた位置づけ、他の作家との関係、何を目指していたのかなどについて知ることも、作品を理解するための一つの方法だと思います。

キュレータートークが、作品をより深く理解し、楽しむことへ繋がる機会になれば幸いです。

瑞慶山昇





鑑賞ツアーとは

鑑賞ツアーとは、美術館の鑑賞ボランティアさんが展覧会場内で来館者と共におしゃべりしながら、展示されている「作品」を楽しむことを目指している。

作品の前でボランティアさんは、「この絵、何に見えます？」とか、「この人何しているように見えます？」といったように気軽にツアーに参加した方に声をかける。声を掛けられた側は、自分があまり興味を抱かない作品に対し、普段なら素通りするところを質問されたため、返答しようと絵の前に立ち止まる。つまり、そこで作品と鑑賞者が繋がるのである。

それがこの鑑賞ツアーの目的で、そこには、専門的知識も学芸員の見解も必要ない。そのため鑑賞者も「私には外で遊んでいる子供に見えます」というように自分の素直な気持ちで作品と向き合うのだ。そして会話が続くにつれ、段々と作品に興味を持つようになる。

美術作品の鑑賞の一步は、鑑賞者がまず作品の前に立ち、作品を「見る」という行動から始まるのである。この鑑賞ツアーがその一步になれば幸いである。



鑑賞ボランティアに参加して

鑑賞ボランティアを始めた頃、私は生後4ヶ月の子どもがいたのですが「連れてきてもいいですよ」と言われ、子連れの鑑賞ツアーとなりました。

開館記念展では、比嘉豊光さんの「島クトゥバで語る戦世」や照屋勇賢さんの紅型の作品「結い、You-I」など、鑑賞する人の足を少し止めて、一緒におしゃべりすることで「戦争の話をしているのに、この人は生き生きしゃべっているね」、「綺麗な紅型だと思っていたけど、良く見たらこれは戦闘機だね」などいろいろ気付いてもらえたり、また、鑑賞者の言葉にこちらが感心させられたり、気付かせてもらったりと一方的に知識を押し付けるのではなく、お互いに気付き合えるツアーだなあと楽しく参加させていただきました。

今では子どもは3歳になり、やんちゃ盛りでなかなか一緒という訳にはいかなくなりましたが、私がガイド役になり子どもに「この絵は何に見える?」と聞いてみると、子どもからは私が考えてもいない答えが返ってきたりして、親子でも楽しく鑑賞しています。

與儀 美奈子





当館は、主として現代美術作品を収集し、展示を行っている。収蔵作家のほとんどがご健在のため、アーティストトークでは、直接展示作家の話聞くことができる。

作品の制作過程における作風の変化、制作技法や制作スタイルの変遷など、作品の背景にある様々な思いや考えを制作者本人から聞くことができる。それまで自分にとって遠い存在の作家や作品が、作家の声を通すことで急速にその距離を縮め、より身近な存在になる。そこから美術作品への興味や関心が深まることを期待する。



アーティストトークを終えて

今も色濃く東南アジア文化の香りを残す沖縄で、「メコン4525km」の写真展を行えたことは、とても嬉しく思います。

写真展開催中に行ったアーティストトークにおいては、来場者の人数の多さと、熱心な眼差し、そして好奇心いっぱいに僕の話に聞き入ってくださる姿は、今も忘れません。

被写体になっている東南アジア各国のコスモロジーが沖縄とクロスする部分が多く、映像の中、話しの中から、皆さんに感じ取ってもらえたことと自負しています。

「写真家は、何をどのように見て、作品に昇格させていったのだろうか」といった原初的な興味が、熱心さに継いでいったのだろうと想像します。

映像と話しを交え、直接質問に答えるといった機会は、そうたくさん存在しないが、このような機会を通じて、写真家の作品創りへの姿勢や、フィロソフィーといったものを汲み取っていただけたのではないのでしょうか。

アジアのコスモロジーに興味を持ち、四十年にわたり撮影を続けている自分にとって、沖縄は地理的にも、文化の面で大切な地なのです。現在は、ベトナムから黒潮を追って北上しながら各地の港町を取材撮影している時です。来年あたり、沖縄の離島から本島にかけて撮影を続けます。三年後には、写真集の完成を夢んでいます。また発表の機会があることを念じております。

管 洋志



「メコン4525km
—管洋志写真展—
講 師：管洋志（写真家）
日 程：3月5日（土）
11：00～12：00
場 所：美術館講座室
参加者：65人

平成22年度 アーティスト・ギャラリートーク

1 「ガイヤへの帰還～ color of Asia ～」

講 師：宮城和邦氏（画家）
日 程：5月15日（土）15：00～16：00
場 所：コレクションギャラリー2
参加者：14人

4 「沖縄の色彩—沖縄戦後美術の流れ vol. III」

講 師：彦坂尚嘉氏（美術家）
日 程：2月6日（土）15：00～16：00
場 所：コレクションギャラリー3
参加者：12人

2 「儀間比呂志版画展」

講 師：儀間比呂志氏（画家）
日 程：6月19日（土）15：00～16：00
場 所：コレクションギャラリー1
参加者：24人

5 「RYAN GANDER- ライアン・ガンダー展 -」

講 師：井上間從文氏（琉球大学専任講師）
日 程：2月19日（土）15：00～16：00
場 所：コレクションギャラリー2
参加者：17人

3 「組み合わせから生まれるイメージ

～喜村朝貞のカラーージュ～
講 師：稲嶺成祚氏（画家）
日 程：10月16日（土）15：00～16：00
場 所：美術館講座室
参加者：14人

当館では教育機関との繋がりを持ち、美術館を活用していただくため、沖縄県内の幼稚園から高等学校・特別支援学校までの図画工作担当及び美術教科担当の先生に対する特別講座を実施している。

今年度の講座内容は、美術館が柱として行う活動「保存・修復」や、新指導要領における「鑑賞」と美術館とのつながり等の紹介と並行して、実際に美術館で行っている教育普及事業（キュレータートークと鑑賞ツアー）を体験していただいた。

作品鑑賞の実践方法として、美術館が鑑賞授業用に制作した「ティーチャーズ・キット」を用いた琉大附属中学校での授業の紹介や、学校対象で行う「アウトリーチ（出張美術館）」の指導案を参加した先生方に作成いただいた。

特に指導案作りでは、鑑賞授業に関する個々の考え方や、担当学年での発達の差異による授業形態の工夫などを話し合う中で、他校の生徒・児童について知る機会となり、その共有を図ることで、もっと多様な連携が取れると思っている。

『平成 22 年度図工科及び美術科教師向け講座』アンケート集計結果（8/12）

Q1 今回の講座内容について					
	大変良い	良い	物足りない	要改善	無回答
美術館の主な活動について	2人	7人	1人	0人	0人
バックヤードツアー	7人	2人	1人	0人	0人
キュレータートーク	5人	3人	1人	0人	1人
鑑賞授業実践報告	5人	4人	1人	0人	0人
アウトリーチ説明	2人	6人	2人	0人	0人
アウトリーチW・S	2人	5人	3人	0人	0人

Q 2 上記で「物足りない」・「要改善」とあげた方について、その理由を記入してください。

「活動や、組織図、費用等の一過性を見るだけの資料だけでなく、紙媒体としてもあった方が良いと思う」、「小学校、中学校、高校と発達段階の違う生徒への鑑賞の授業方法も聞きたかった。グループを小・中・高に分けたらいいのかなあ〜」、「初めての体験が多く、どれも新鮮でよかったです。バックヤードツアーも面白かったです」、「もっとゆっくり時間をかけて説明を聞きたかった、聞き取りにくい箇所もあった」、「具体的にどの時間とか、アウトリーチを入れるのか等、もちろん学校との調整の中で決めていくと思いますが、ある程度大枠で提案とかテーマとかあればw・sの時もやりやすかったかなと。それともう少し美術館側の情報が欲しかった」、「校種別にワークシートを作成しましたが、同一校種の方が話し合いが進みやすいかなとも感じました」、「もっと時間をかけて見学したかった」、「ワークショップは必要なし」等の理由が挙げられた。

Q 3 今回の講座で良かったと感じたことは何ですか？

「美術館が学校と連携を図りたいと考えていることがよく分かった。技術指導やコンクールへ出品することに時間をかけ、鑑賞の時間が少ない事は気になっていたので、今回の講座で学んだことを活かして授業で実践してみようと思います」、「ティーチャーズキットの活用例を知ったこと、普段見られない施設の裏側を見れたこと、よかったです」、「美術作品への職員の皆さんの想い、大変さが伝わった。また学校との連携を推進して下さっているのも有り難く感じた。教師自身、身近な沖縄の作家に対し、見識を深め沖縄美術の移り変わりを知ることができました。視野も広がりが子供達への伝え方、授業の持ち方にも広がりがでると思います。有難うございました」、「特に良かったのは鑑賞授業実践報告会でした。校種の違う別の先生方の話も聞けて大変参考になりました。特に鑑賞授業は難しいと感じているところでした」、「鑑賞の授業の展開の仕方をグループで考えて仕上げて事、「使えそうな言葉集」を早速使ってみたい。子供の絵の発達過程の資料がとても良い。ティーチャーズキットを使ってみたい」、「鑑賞授業に今後活かせるヒントを得ることができた」、「違う校種で意見を言い合えたのがよかった」、「キュレータートークが分かりやすかったです」、「大事な文化を残し伝え新しく生み出していくという教育活動をしなきゃと思っています」、「バックヤードツアー・キュレータートークに関してもっと時間が欲しかったです」等の意見が挙げられた。

Q 4 もし次年度も美術館の教員向け講座を受けるとしたらどのような内容の講座を受講したいですか？

「書くことが苦手な生徒へのアプローチ方法」、「1日の内容としては少し詰めすぎかな、とも感じた。でも、沢山学べたので良かったと思います。次回以降はコマ（時間帯）を選択して参加するとかにしたい」、「もっと沢山の作品の鑑賞や鑑賞する視点を学びたい」、「小学校の先生の実践例をお聞きしたいことと、今年のアウトリーチ活動の話も聞きたい」、「授業展開の話方」、「鑑賞授業の実践報告など」、「美術館が具体的に何をしています、社会との関係の中でどのような役割をになっているか、【物】としての存在を知るための授業というのがあっても良いかなと思った（キャリア教育へ活かしたい）」、「沖縄の美術家について実物を見ながら解説した頂けると良い」、「作品について時間をかけて細かな説明をして欲しい」等の意見が挙げられた。

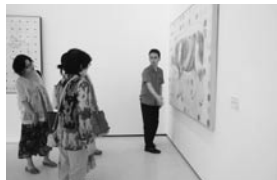
最後に何かあれば、、、（美術館への希望等）

「スタッフの皆さまお疲れ様です。とても勉強になりました。来年も期待しています」、「鑑賞の指導について勉強する機会を与えて下さり感謝します。移動美術館を北部地区でも開催して頂けると嬉しいです」、「もっと身近な美術館になるように欲しい。美術館が美術館になって欲しいと願います」、「もっともっと美術館が身近でマックへ行くような感覚になったらいいなと思います。後、年間パスポートをもう少し安くしてほしい」、「アンケート用紙は早く渡してほしい。いい企画を有難うございました」等の意見が挙げられた。

参加者データ

日程		8月12日	8月13日
性別	男	3	2
	女	5	5
	無回答	2	3
校種	小学校	5	5
	中学校	2	4
	高校	2	2
	特別支援	0	0

日程：8月12日(木)
13日(金)
9:00～17:00
場所：美術館講座室
参加者：10人(12日)
／13人(13日)



『平成22年度図工科及び美術科教師向け講座』アンケート集計結果(8/13)

Q1 今回の講座内容について

	大変良い	良い	物足りない	要改善	無回答
美術館の主な活動について	1人	7人	0人	0人	1人
バックヤードツアー	7人	2人	0人	0人	1人
キュレータートーク	1人	6人	1人	0人	1人
鑑賞授業実践報告	4人	4人	1人	0人	1人
アウトリーチ説明	4人	5人	0人	0人	1人
アウトリーチW・S	3人	5人	1人	0人	1人

Q2 上記で「物足りない」「要改善」とあげた方について、その理由を記入してください。

「実践報告について、作者の狙い(作品解説)が最後にあるべきだと思う。個人の感想が全て正解だというのは違うと思う。作者と個人の間に正解があるのも鑑賞だと思った。」「名札があった方がよかった。実践報告で子供の書いたワークシートが見えなかった。」「キュレータートークに関しては時間が押していたので仕方ない状況でした。もう少し説明ももらいたいと思いましたが、アウトリーチ・ワークショップがメインかなと思いますので、厳しいかとも思います。」「指導案を最後まで仕上げるには事前にどういふ事をやるのかを前もってもう少し詳しく書いて発送した方が良かったと思う。美術の良さわかっていない小学校教師にとっては準備が必要。(この場で何か具体的に習えんとおもうと来たので)」「鑑賞授業実践報告の例を他校種のもの紹介があればなお良い(小・中・高)、アウトリーチの案をもっと紹介して、様々な方法を受講生で共有したい。また、協議して深めたい。」「ワークシート作成なども行いたいです。」等の意見が挙げられた。

Q3 今回の講座で良かったと感じたことは何ですか？

「ワークショップで他の学校や、学年の生徒の話、先生方の考え、意見を聞いたことが良かったです。」「鑑賞の授業について実践されていることが知りたかったので、具体的な指導内容を見せていただき、参考にしたいと思いました。鑑賞の指導の幅が広がる意見を他の学校の先生から聞くことができたのも良かったです。」「バックヤードツアーの説明が分かりやすかった。館内の設備が詳しく理解できた。」「バックヤードツアーで具体的に現物を見て解説してもらえたいと思います。」「美術館の活動について詳しく知ることができた(特に組織、内容)。鑑賞授業の仕方のヒントを得たので活用していきたい。アウトリーチを活用できたらいいと思う。子供達に本物を見ることの大切さを知ってもらいたい。」「美術館を活用した鑑賞教育には以前から関心がありました。指導者本人が体験してみなければ良さを伝えることができないと感じた。」「全体的にとっても参考になりました。鑑賞のさせ方として児童が無知の状態から始めてみるのも楽しそうだったし、やってきた事が準備不足のやり方(すぐに作品を見せる事)ではないと思えたからです。子供達の自由な発想を共感し、伸ばしてあげるような鑑賞を目指せそうです。ティーチャーズキットが沖繩の全学校に配布されたら嬉しいです。」「美術館の裏側を見ることで、より作品に対しての見方や思いが強くなり自分の意識に大きな変化があった。」「資料を出すときに縛られて発想の範囲が狭まる危険があると感じた。」「校種の違う学校と意見交換ができたことが良かった。具体的な実践材料を得ることができた点に満足しています。」等の意見が挙げられた。

Q4 もし次年度も美術館の教員向け講座を受けるとしたらどのような内容の講座を受講したいですか？

「1回目のアウトリーチの報告と2回目のアウトリーチについて議論できたらそれがしたい。美術館の施設を使ったワークショップが行えたら良い。」「技能、表現等の講座。」「絵の描かせ方。」「実践講座を受講したい。」「美術館・博物館全て巡らして、全階解説入りで回りたい。利用状況等を参考に学校の子供達にも伝えたい。」「表現(制作)へつながる作品の見せ方も知りたい。抽象的な表現の授業が難しいので、どう生徒を取り組むかの方法も話し合える講義が欲しい。」「今年度やった内容を(美術館の活動、バックヤードツアーは省く)講座で企画して欲しい。美術館と連携した授業内容(実践)の紹介をもっとしてほしいし、来年度からは前年度受講された方と初めての受講の方を開催日を分けてやってほしい。」等の意見が挙げられた。

最後に何かあれば、、、(美術館への希望等)

「他県の活動事例があれば良かったかな。」「貴重な体験をさせて頂きました。有難うございました。」「少ない人数にも関わらず、すばらしい企画に感謝します。有難うございました。申込希望が7月くらいだともっと参加者も増えていいんじゃないでしょうか?」「パンフレットを学校に配布してもらいたい。教室に掲示して子供達にも知らせたい。」「ワークショップ等の告知が少ないと思います。その都度連絡して頂ければ有り難いです。」等の意見が挙げられた。



アウトリーチ授業として、当館収蔵作品を琉球大学附属中学校に運び、作品鑑賞の授業を行った。

準備した作品は、山元恵一の「無題4」と安谷屋正義の「帰り途」そして川平恵造の「Now・・・(1)」の3点で、表現の異なる作品を選択して実施した。

今回の鑑賞授業の対象は1年生でアメリカ・アレナスの「対話式鑑賞」をもとに3点の作品に3人の案内人を用いて授業を行った。その中で、写真ではなく実際の作品を見ることで、キャンパスに存在する作家の筆使いを生徒自身がみつけ、作者の心情を読み取ろうとする様子は大変興味深く、その瑞々しい感性に感動した。

後日、琉大附属中学校の生徒が美術館に訪れ、展示室にて担当の学芸員から作品の解説を聴講することで、さらに美術作品への鑑賞を深めた。

今後とも学校に限らず、多方面で美術館をアプローチできるアウトリーチにしていきたいと考えている。

■ 講師：島筒格氏
 （琉球大学附属中学校 美術教諭）
 日程：11月25日（木）
 14：00～16：00
 場所：琉球大学附属中学校 美術室
 参加者：162人（一学年）

感想

今日の出張美術館では絵を見て、自分で何が書かれているか、どんな題なのかを自分なりに考えることができたし、考える事の大切さを知った。例えば「Now・・・(1)」という作品で題をきいてない時はとても暑いというのを表現したくて、牛のがいこつが「暑い」といっているように見えたが、「Now（今）」という題を聞くと、全然違ってみえて、絵が動いて、雲や風が感じられるような気がしてきました。私達は「今」を生きているというのをこの一つの絵で感じる事ができました。しかし、このように感じ、絵を見てはじめて楽しいと思ったのも、本物の大きさ、本物の色使い、そして自分の意見の想像をしていたからだとは思いました。

また、それと同時に作品の大切さについても教わりました。美術館の人の話を聞いて、関係者の人達がどれだけ一つの作品を大切にしていたのが伝わりました。今日学んだ事は今後の美術品を見る時に、より大きく生かすことができると思いました。



感想

今まで美術館や絵などのギャラリーに何回かいったことはあるけど、今回の作品は、今まで見てきた作品と違って何が描いてあるのかわからなくて、とても不思議だった。でもそれで、何を描いてあるのか、どんな感じがするのかな等をみんなで考えるのも鑑賞の楽しみ方の一つなんだとわかりました。

そして最初に「何これ？」と思うような作品でも、どんな感じがするのを読み取れたし、タイトルを聞くと更に、作者がどういう気持ちで描いたのか、どんな時に描いたのかが考えられるし、想像しやすくなった。

ひとによって見方や感じ方もみんな違っていて、それも面白かった。また今回のような鑑賞をやってみたいです。



■ 見学会

講師：豊見山愛（当館学芸員）
 日程：12月7日（火）10日（金）
 9：30～12：20
 場所：コレクションギャラリー
 参加者：162人（一学年）



感想

色々な絵があつて楽しかった。この絵を書いた人の言いたいことが、前よりもわかった気がした。人の感情とか、思いとかで全然、絵も変わってくるとわかって本当に面白いなあ…。と思いました。ふだん、自分から絵を見に行ったり、美術館に行ったり、あまりないけど、授業を通して行くことができよかったです。

絵は、ただ見るのではなく題名と絵を見て作者が、どんな想いでその作品（絵）を書いたのか？など、考えることができました。

今までは、絵には全く興味がなくて、あんまり面白くなさそう…。とか思っていたけれど…前の印象とは違って、見れば見るほど深くわかってきた。こんなに、絵を見に行っただけで変わるってすごいなあ…と思った。

県立博物館・美術館は小・中学生無料だったので次もまた、絶対に行きたいと思った。

この経験を通して、絵に興味も持てたし、絵を描きたいなあ…。とも思った。美術館に行つて本当によかった!!!

次も美術館に、友達や家族と行くぞー。

感想

今日、県立美術館に行つて見て、色々絵を見られたので、良かったです。移動美術館のときにもあった「無題」の作品の続きや前が見れたのもとっても良かったです。いつもなら絵を見て上手だなあとぐらいしか思っていなかったけど県立美術館では、作者の気持ちや絵を書いた場所・代名・色づかいなどにも細かく目を通すことができたので良かったです。また近くで見るのと遠くで見るのとは、絵の感じ方や色あいが違って見えることも始めて知りました。

これから絵を見るときには、色や作者の気持ちをなぜここは、この色にしたか？どんな気持ちで書いたかなどしっかり考え絵を見ていきたいと思います。また、今日は、なぜこの絵はすごいのかとわからない絵もあったので、その絵をすごいと思えるようにもっと色々なところに目を付けられるようにして、また県立美術館に行きたいと思います。





「組み合わせから生まれるイメージ～喜村朝貞の
コラージュ～」(2010年9月11日(土)～2011年
1月23日(日)) 関連催事として実技のワークショッ
プを行った。コラージュ作品を平面ではなく立体
で作るということで、素材を選ぶ楽しさもさること
ながら、飛び出す具合を調整するなど、より造形
的な作品に仕上がった。出来上がった作品は情報
センターにて実物、写真で紹介することができた。
*コラージュとは現代絵画の技法の1つで、ばらば
らの素材(新聞や雑誌の切り抜き、雑多な物体など)
を組み合わせることで作品を構成します。

■ 美術館ワークショップ

「組み合わせから広がる世界 立体コラージュをつくろう」

日 時：1月16日(日) 9:30～12:30

講 師：上原秀樹氏(造形作家)

場 所：県民・子供アトリエ

参加者：12人





立体コラーージュ作りに参加して
 松島小学校 四年 上原 拓也
 二月に、美術館主催の、「立体コラーージュ作りに参加しました。」
 僕は、家から昆虫図鑑を持っていきました。
 「立体コラーージュ作り」が一番最初にやった事は、配られた箱の色塗りです。僕は、昆虫と花をテーマにしたが、たので、緑と白を少し混ぜた色を塗りました。
 次に、切り抜いた絵をはり付けていきました。
 した。工夫したところは、正面から見ただ時に立体感を出すため、そのままはり付たり、紙を使う。少し手前にならしたりしたこと。難しが、たところは、カマキリを切りとる作業です。楽しか、たことは、頭の中で想像図を組み立てながら作ったことです。
 また、今回と同じような物を作る機会があれば、ぜひ参加したいと思います。





奈良美智+杉戸洋 アーティストトーク

コレクションギャラリー2「ドイツ現代美術を中心に」関連講座

日時：2010年10月1日(金) 18:30~20:00

講師：奈良美智氏+杉戸洋氏

場所：講堂

参加者：270人

大和コレクション展I<ドイツ現代美術を中心に>(会期：9月11日~1月23日)の関連催事として、奈良美智、杉戸洋の両氏をお招きした。古くからの友人でもあるお二人のトークショーは大変貴重で、県外からも多くのファンが詰めかけた。作品制作のことだけでなく、アーティストとしての生き方を、等身大で語っていただけた、あたたかな雰囲気トークセッションとなった。県内の美術愛好者のみならず、アーティストを目指す学生に良い刺激となった、と反響が大きく、今後もこのような、第一線で活躍する作り手の声を、直接聞くことのできる機会が増やせるよう努めたい。(豊見山)





沖縄から女性美術を考える

日時：2010年10月9日（土）13:00～16:00

講師：久場とよ氏、山元文子氏、宮良瑛子氏、中島イソ子氏、山城知佳子氏、根間智子氏（以上、アーティスト）、
宮城晴美氏（沖縄戦後女性史研究）、小勝禮子氏（栃木県立美術館学芸課長）、
ラワンチャイクン寿子氏（福岡アジア美術館学芸係長）、崎山律子氏（フリージャーナリスト）

場所：講堂

参加者：126人

沖縄女性美術史というジャンルにおいて初の記念すべき研究会である。まず基調講演で、戦後女性史研究者の宮城晴美氏に「女性の目で見た戦後沖縄」についてご高話いただき、引き続き、沖縄で活動を続けておられるアーティストの方々に語っていただく構成にした。特に、東京美術学校を卒業後、奉職した名渡山愛順に絵の手ほどきを受けた久場とよ氏、山元文子氏の語りは、沖縄女性美術の萌芽を知る上で重要なものであった。1977年に発足した沖縄女流美術協会の中心的な存在である、宮良瑛子氏と中島イソ子氏については、同協会発足の経緯に詳しい崎山律子氏に聞き手をつとめていただいたことで、制作への深い思いに触れることができた。近年、若手アーティストとして注目されている山城知佳子氏、根間智子氏の作品紹介と、根間氏の、沖縄で制作を続ける意味についてのお話は、ことさら世代の分断をつなぐ意味で重要と感じた。さらに、女性美術史をアジア、日本の領域で研究をされている、栃木県立美術館の小勝禮子氏、福岡アジア美術館のラワンチャイクン寿子氏に女性美術の魅力についてご高話いただいた。

このように、美術作品を通して女性の在りようを知る試みは、2012年度に開催を予定している<アジアの女性アーティスト>展に向けて生かせたらと思う。（豊見山）





文化庁・メディア芸術構築事業



これまでも取り組みを行っている映像分野において、制作のワークショップを実施した。身近なCMを糸口にデジタル時代の背景を紐とく実践型のワークショップを目指し、企画、撮影、編集までの事例紹介、実際の制作を行った。また、撮影編集技術の移り変わりなど映像制作の歴史を紹介するレクチャーも同時に開催した。

CMの仕組みから制作の技術を体得し、新たな映像表現の人材発掘の機会、次世代の人材育成を見据えた内容になったと考える。映像という媒体を使用した表現はあらゆる分野で使用されており、多岐に亘るからこそ数ではなく質の高い作品排出ができる環境を築いていきたい。

■ CM ができるまで—デジタル時代の映像の作り方

講師：大山健二氏 (CG&SOUND STUDIO GRANMUSE)
比嘉 洋氏 (株式会社沖縄映像センター)
内容：映像制作の歴史 (編集技術の移り変わり)
日時：7月4日 (日) 14:00 ~ 16:00
場所：沖縄県立博物館・美術館 スタジオ
参加者：19人

■ ワークショップ：「CMを作ろう」

講師：大山健二氏 (CG&SOUND STUDIO GRANMUSE)
比嘉 洋氏 (株式会社沖縄映像センター)
日時：7月10日 (土)、11日 (日)、17日 (土)、18日 (日)
13:00 ~ 17:00
場所：沖縄県立博物館・美術館 スタジオ
参加者：12人



儀間比呂志絵本読み聞かせ会

日 時：6月16日(水) 17日(木) 18日(金) 13:00～13:30

場 所：エントランス・民家

参加者：4人(16日) / 6人(17日) / 8人(18日)

「儀間比呂志版画展」(2010年4月24日(土)～7月4日(日))関連催事とし、画家が挿絵を提供、または制作した絵本の読み聞かせを実施した。絵本の内容や展示されている絵を通じ、沖縄戦と平和について考える機会となる事を目指した本事業は、一般向けの開催に加え、慰霊の日の前日6月22日(火)には、あやめ保育園の園児を迎えて開催した。本の内容として理解するには若干難しかったようにも思えたが、個々人なりに子どもたちの中で戦争とはあってはならないことと受け止めた様子だった。

戦争を実体験として経験していない世代が今後どう受け継いでいくのか、その意味も含め意義のある内容だったといえる。

参加学校：あやめ保育園

日 時：6月22日(火) 13時～14時

場 所：美術館コレクションギャラリー1、アトリウム

参加者：園児17人・引率3人



平成22年度
移動展 in 石垣島 名渡山愛順展



日時：2010年10月29日(金)～31日(日)

3日間(入場無料)

場所：石垣市民会館展示ホール
(石垣市浜崎町1丁目1番2)

出品協力：名渡山愛擴氏





2009年に開催した企画展「名渡山愛順」展出品物のなかから、1965年に石垣島で描かれた『八重山宮良殿内』を含めた20点の秀作を紹介した。1932年に東京美術学校を卒業して県立第二高等女学校に奉職した名渡山の教え子など、ゆかりのある方々が涙を流して懐かしむ姿や、キッズキュレーターで参加してくれた石垣市立崎枝小中学校の生徒たちが、琉球舞踊家の巧みな身体描写を次々と発見していく姿に、意義深いものを感じた。戦時下においても、紅型模写の授業をやめなかった、たゆまぬ郷土美への追求者・名渡山愛順の魅力に触れていただけたと思う。(豊見山)



展示会関連催事

「母たちの神―比嘉康雄展―」



比嘉康雄（ひが・やすお）は、戦後沖縄を代表する写真家の一人であると共に、民俗学の中でも大きな功績を残した人物で、激動期の沖縄を象徴する写真家とも言える。始めは沖縄の現状を訴える作品が多かったのだが、宮古のまつりに出会い、沖縄の古層（最も深い根となる部分）に降りて行くようになる。その後、比嘉は「神々の古層」をはじめ「神々の原郷 久高島」などの著作を執筆し、やがて琉球弧の祭祀の撮影を通して、沖縄人の生活・文化の根幹となる思想を求めようになる。

本展では、比嘉が生前に出版のため編集した「母たちの神」―琉球弧の祭祀を網羅したオリジナル写真162点のネガをもとに、全紙サイズにプリントした作品を展示紹介した。その作品から比嘉康雄の求めた思想や、そこから導かれる祭祀の現状を感じて欲しいと思う。さらには、展示会の関連催事を通して、現代の沖縄に生きる私たちが、沖縄の近現代について考え、また日本という枠ではなくアジアという大きな括りの中に沖縄を置き、今後の沖縄の新たな可能性を探る機会になることを目指した。



■ ギャラリートーク

1 「比嘉康雄展①」

講師：港千尋氏（写真家・多摩美術大学教授）
 日程：11月20日（土）15:00～16:00
 場所：美術館企画ギャラリー
 参加者：34人

2 「比嘉康雄展② 沖縄の祭祀—比嘉康雄の写真より」

講師：波照間永吉氏（沖縄県立芸術大学教授）、高良勉氏（批評家・詩人）
 日程：12月11日（土）15:00～16:00
 場所：美術館企画ギャラリー
 参加者：45人

3 「比嘉康雄展③ 比嘉康雄と久高島」

講師：内間豊氏（NPO法人久高島振興会理事）、高良勉氏（批評家・詩人）
 日程：12月25日（土）11:00～12:00
 場所：美術館企画ギャラリー
 参加者：36人

■ 講演会・シンポジウム

第1回 『今、なぜ比嘉康雄か?』

日時：2010年11月7日（日）14:00～17:00
 場所：博物館講座室
 パネリスト：比嘉豊光氏（写真家）、高良勉氏（批評家・詩人）、翁長直樹（当館副館長）、安里英子氏（批評家）
 コーディネーター：後田多敦氏（海邦市民文化センター代表理事）
 参加者：78人

第2回 『琉球弧の祭祀世界と生死観』—魂の発見と女・神・母たちの世界—

日時：2010年12月5日（日）13:00～18:00 場所：講堂
 ・映画上映2本／大重潤一郎氏：「沖縄久高島 源郷ニラカナイへ比嘉康雄の魂～」
 比嘉豊光氏：「比嘉康雄の世界-神々の視線-宮古島 狩俣」
 パネリスト：西谷修氏（東京外語大学教授）、稲福みき子氏（沖縄国際大学教授）、赤嶺政信氏（琉球大学教授）、奥濱幸子氏（沖縄民俗研究者）
 コーディネーター：安里英子氏（批評家）
 参加者：168人

第3回 『比嘉康雄—その<写魂>と<写今>—沖縄写真史の中で』

日時：2010年12月25日（土）14:00～18:00 場所：講堂
 クロストーク：東松照明氏（写真家）、仲里効氏（批評家）
 パネリスト：仲里効氏（批評家）、小橋川共男氏（写真家）、土屋誠一氏（沖縄県立芸術大学講師）、赤坂憲雄氏（民俗学者・東北芸術工科大学教授）、小原真史氏（IZU PHOTO MUSEUM 研究員）
 コーディネーター：大城仁美（当館学芸員）
 参加者：165人

■キュレーター・トーク（2回実施）

講師：大城仁美学芸員
 場所：企画展示室1・2
 日時：①2010年11月6日 15:00～16:00
 ②2010年12月4日 15:00～16:00
 参加者：①15名 ②12名



展示会関連催事

「60年代を駆け抜けた画家の軌跡 安谷屋正義展―モダニズムのゆくえ」



1960年代の沖縄美術界をリードした画家、安谷屋正義(1921-1967)は、終戦直後、焦土の中から美術村(ニシムイ)を立ち上げ、五人展や創斗会などのグループを結成し、多くの絵画論を展開した。初期は具象的表現を模索するが、50年代から構成的になり、60年代には鮮明にモダニズム(近代主義)を打ち立てた。

本展は、油彩、水彩、エスキース等の作品展示から安谷屋の画業の軌跡を通観し、その時代と現在との対比で今日の沖縄美術を考える契機になったといえるであろう。

会期中開催した関連催事では、安谷屋の時代を知り、そして次世代に繋ぐことを目指した。また、安谷屋作品の象徴的な色「白」を蘇らせた絵画の修復作業についての講演なども行った。

■ ギャラリートーク

講師：星雅彦氏（詩人・評論家）
 日程：1月29日（土）15:00～16:00
 場所：美術館企画ギャラリー 1.2
 参加者：26人

■ キュレータートーク

講師：翁長直樹（美術館副館長）
 日程：2月5日（土）15:00～16:00
 3月11日（土）15:00～16:00
 参加者：28人（5日）/22人（11日）

■ シンポジウム

(1) 「安谷屋正義の時代」

当時の安谷屋を知る方々をお招きし、当時のエピソードなど貴重な話を聞いた。
 パネリスト：大城立裕氏、山田實氏、稲嶺成祚氏
 コーディネーター：翁長直樹
 日程：2月12日（土）14:00～16:00
 会場：講堂
 参加者：104人

(2) 「モダニズムを超えて」

日時：3月4日（金）19:00～21:00（開場 18:30）
 パネリスト：宮城明氏、上原誠勇氏、栗国久直氏、与那覇大智氏、山城知佳子氏
 コーディネーター：翁長直樹
 会場：講堂
 参加者：96人

■ 講演会

「展覧会の裏側—絵画の修復」

講師：中井久代氏（絵画修復家）
 日程：2月25日（金）18:00～19:30
 会場：美術館講座室
 参加者：104人



キュレータートーク

- 1 「沖縄の色彩ー沖縄美術の流れ vol.3」
 講師：豊見山愛（美術館学芸員）
 日程：4月24日（土）15:00～16:00
 場所：コレクションギャラリー3
 参加者：6人
- 2 「ガイアへの帰還～ color of Asia～」
 講師：國吉亮子（美術館学芸員）
 日程：5月1日（土）15:00～16:00
 場所：コレクションギャラリー2
 参加者：8人
- 3 国際博物館の日関連催事
 講師：仲村美奈子／國吉亮子／豊見山愛
 （美術館学芸員）
 日程：5月22日（土）14:10～16:00
 場所：コレクションギャラリー
 参加者：24人
- 4 「儀間比呂志版画展」
 講師：仲村美奈子（保存修復担当学芸員）
 日程：6月5日（土）15:00～16:00
 場所：コレクションギャラリー1
 参加者：27人
- 5 「大和コレクション展 I
 ～ドイツ現代美術を中心に」
 講師：豊見山愛（美術館学芸員）
 日程：9月11日（土）15:00～16:00
 場所：コレクションギャラリー2
 参加者：14人
- 6 「組み合わせから生まれるイメージ
 ～喜村朝貞のコラージュ～」
 講師：瑞慶山昇（美術館学芸員）
 日程：10月2日（土）15:00～16:00
 場所：コレクションギャラリー1
 参加者：9人
- 7 「ライアンガンダー展」
 講師：新里義和（美術館学芸員）
 日程：3月12日（日）15:00～16:00
 場所：コレクションギャラリー2
 参加者：9人

鑑賞ツアー

- 1 「大和コレクション展 I 〈ドイツ現代美術を中心に〉」
 日程：9月11日（土）16:00～17:00
 場所：コレクションギャラリー2
 参加者：8人
- 2 「組み合わせから生まれるイメージ～喜村朝貞のコラージュ～」
 日程：10月2日（土）16:00～17:00
 場所：コレクションギャラリー1
 参加者：6人
- 3 「沖縄の色彩 - 沖縄美術の流れ vol.3」
 日程：11月6日（土）16:00～17:00
 場所：コレクションギャラリー2
 参加者：3人
- 4 「母たちの神ー比嘉康雄展ー」
 日程：12月4日（土）16:00～17:00
 場所：企画展示室1・2
 参加者：5人
- 5 「60年代を駆け抜けた画家の軌跡 安谷屋正義展ーモダニズムのゆくえ」
 日程：2月5日（土）16:00～17:00
 場所：企画展示室1・2
 参加者：6人
- 6 「大和コレクション 2 RYAN GANDER ーライアン・ガンダー展ー」
 日程：3月19日（土）15:00～16:00
 場所：コレクションギャラリー2
 参加者：7人

鑑賞ボランティア育成講座

1「オリエンテーリング」

講師：國吉亮子（美術館学芸員）
日程：8月7日（土）15：00～17：00
場所：美術館講座室
参加者：6人

4「比嘉康雄展」

講師：大城仁美（美術館学芸員）
日程：11月27日（土）15：00～16：00
場所：美術館講座室
参加者：5人

2「大和コレクション展Ⅰ」

講師：豊見山愛（美術館学芸員）
日程：8月21日（土）15：00～17：00
場所：美術館講座室
参加者：5人

5「管洋志展」について

講師：大城仁美（美術館学芸員）
日程：3月5日（土）15：00～16：00
場所：美術館講座室
参加者：51人

3「喜村朝貞展」

講師：瑞慶山昇（美術館学芸員）
日程：9月4日（土）15：00～17：00
場所：美術館講座室
参加者：4人

美術講座

1「沖縄美術の流れ ～現代美術を中心に～」

講師：翁長直樹（沖縄県立美術館副館長）
日程：6月5日（土）13：00～14：00
場所：美術館講座室
参加者：43人

2「美術の鑑賞方法」

講師：奥村高明氏（文科省調整官）
日程：7月17日（土）17：30～20：00
場所：美術館講座室及び美術館コレクションギャラリー
参加者：12人

3「消えていく国境 ドイツのアートと社会について」

講師：ティトウス・スプリー氏（琉球大学准教授）
日程：1月22日（土）15：00～16：00
場所：美術館講座室
参加者：18人

バックヤードツアー

1：4月10日（土）11：00～11：40	参加者：5人
2：5月8日（土）11：00～12：00	参加者：2人
3：5月22日（土）11：00～12：00	参加者：13人
4：6月5日（土）11：00～12：00	参加者：4人
5：7月10日（土）11：00～12：00	参加者：6人
6：8月7日（土）11：00～12：00	参加者：12人
7：9月4日（土）11：00～12：00	参加者：8人
8：10月2日（土）11：00～12：00	参加者：9人
9：11月6日（土）11：00～12：00	参加者：3人
10：12月4日（土）11：00～12：00	参加者：6人
11：1月15日（土）11：00～12：00	参加者：8人
12：2月5日（土）11：00～12：00	参加者：2人
13：3月5日（土）11：00～12：00	参加者：7人

さいごに

教育普及事業は、主に「人」との繋がりが基本であり、多くの方々の協力を仰ぐことで成り立つ活動だと思います。

今年度も、講演・ワークショップに関わっていただいたアーティストの方々、展覧会関係者、そして美術館を支えているボランティアさんといった、たくさんの力添えがあったからこそこのような報告書としてまとめることができました。この場を借りて感謝申し上げます。

そして、次年度もどうぞお力をお貸してください。

平成22年度
沖縄県立博物館・美術館
美術館教育普及報告書

2010年3月31日

発行

沖縄県立博物館・美術館
沖縄県那覇おもろまち3-1-1

教育普及担当

國吉亮子（沖縄県立博物館・美術館）
町田恵美（文化の杜共同企業体）
大浜萌子（文化の杜共同企業体）